

令和7(2025)年度										年 間 授 業 計 画									
教科・科目			国語				言語文化				2				単位				
対象学年・組			1 年生								必履修								
教科書 (出版社)			言語文化（数研出版）								要点プラス体系古典文法改訂版（数研出版） 言語文化 準拠ワーク（数研出版） 古典アチーブ1 3訂新版（桐原書店）								
学習目標 【観点別】			○古典・現代小説に親しみ「読むこと」において必要なまじりを理解させ、文章に親しむ態度を育成する。【知識及び技能】 ○「読むこと」において文章に表れている内容を理解し、批評したり評価することができる。【思考・判断・表現】 ○言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に意欲的に関わろうとしている。【主体的態度】																
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準				話 聞	書	読	知	思	態			
1	前半	12	古文に親しむ 宇治拾遺物語 「児のそら寝」		・物語の展開をとらえ、はなしのおもしろさを味わう。 ・作品に興味を持ち、作品の表現に着目しながら読む。		【知識及び技能】知(2)ウ ・古典を読むために必要なまじり、特有の表現について理解している。 【思考・判断・表現】B(1)イ ・「読むこと」において文章の種類を踏まえ内容についての確にとらえている。 【主体的態度】 ・作品に興味を持ち、話のおもしろさや人物の心情の変化などをとらえようとしている。				○	○	○	○	○	○			
	後半	12	心情変化を読み取る 「羅生門」		・場面ごとの人物の心情の変化を読み取る。		【知識及び技能】知(1)ウ・知(2)カ ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、文化的背景について理解を深めている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考・判断・表現】B(1)ウ ・「読むこと」において文章の構成や展開、表現のしかた的特色などについて評価している。 【主体的態度】 ・作品に興味を持ち、話のおもしろさや人物の心情の変化などをとらえようとしている。				○	○	○	○	○	○			
2	前半	14	古典世界のまなざし 枕草子 「ありがたきもの」 土佐日記 「門出」		・情景に対する作者の感覚をとらえる。 ・作品に興味を持ち、作品の表現に着目しながら読む。		【知識及び技能】知(2)ウ ・古典を読むために必要なまじり、特有の表現について理解している。 【思考・判断・表現】B(1)ウ 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 【主体的態度】 ・作品に興味を持ち、情景に対する作者の作者の感覚や作品の特色に注目しながら読もうとしている。				○	○	○	○	○	○			
	後半	14	物語の展開を理解する 伊勢物語 「あづま下り」 近代小説 「城の崎にて」		・物語中に表された古典世界の恋愛・物語のあり方をとらえる。 ・それぞれの出来事に対しての表現を理解する。		【知識及び技能】知(2)イ 知(2)ア ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思考・判断・表現】B(1)エ B(1)イ ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 【主体的態度】 ・作品に興味を持ち、文章に登場する「死」についての表現を理解しようとしている。				○	○	○	○	○	○			
3		18	漢文体に親しむ 漁夫之利 朝三暮四		・漢文と我が国の言語文化の関わりについて関心を持ち、漢文訓読の決まりを理解する。		【知識及び技能】知(2)ウ・知(2)ア・知(1)エ ・古典の世界に親しむために必要な訓読のまじりを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や外国文化との関係について理解している。 【思考・判断・表現】B(1)ウ 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 【主体的態度】 ・漢文の学習に興味を持ち、我が国の言語文化の関わりについて関心を持っている。				○	○	○	○	○	○			
評価の観点 (評価基準)			○言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解し、言葉を通して他者や社会に意欲的に関わろうとしている。 ○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について対する理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ○「読むこと」において作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ内容を解釈し、批評したり評価したりすることができる。																
評価の方法			定期考査、小テスト、提出物、授業態度等により評価																
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																
授業担当者			辻朗・松岡杏沙子																

令和7(2025)年度 年間授業計画													
教科・科目		国語 現代の国語		2 単位									
対象学年・組		1 年生		必修									
教科書 (出版社)		現代の国語 (数研出版)		アシスト常用漢字 (数研出版) 現代の国語準拠ワーク (数研出版) 現代文アチーブ1 (桐原書店)									
学習目標【観点別】		○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 ○論理的に考える力や豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考・判断・表現】 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う【主体的態度】											
学期		予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		話聞	書	読	知	思	態
1	前半	12	「読む」と「書く」/書けない日々 社会と文化/水の東西	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解することができる。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。		【知識・技能】言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。【C1(1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。		○	○	○	○	○	○
	後半	12	新しい視点/「わらしべ長者」の経済学 ことばの働き/ものことば	・文、語、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		【知識・技能】文、語、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。【1(1)オ】 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。【C1(1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。		○	○	○	○	○	○
2	前半	14	環境と科学/動物園というメディア・科学コミュニケーション	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。 ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる		【知識・技能】個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。【2(1)イ】 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。【A1(1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】筆者の表現を積極的に読み解いて、その主張を理解し、学習課題に沿って自分の意見を具体的に述べようとしている。		○	○	○	○	○	○
	後半	14	認識の枠組み/浪費を妨げる社会・白	・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。		【知識・技能】比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。【1(1)カ】 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。【C1(1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		○	○	○	○	○	○
3		18	解釈を述べる/事実なのか 考えなのか 具体例を示す/動的平衡の回復	・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。 ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。		【知識・技能】比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。【思考・判断・表現】「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。【B1(1)エ】 【主体的に学習に取り組む態度】筆者の主張を的確に理解し、学習課題に沿って自分の考えを深め、学習課題に沿って条件に即した形で論述しようとしている。		○	○	○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)		○生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 ○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 ○言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。											
評価の方法		定期考査、小テスト、提出物、授業態度等により評価											
学習の手引き		○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○生涯にわたり必要な国語の知識・技能を身に付け、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。											
授業担当者		辻朗・明正利恵・松岡杏沙子											

令和 7 (2025)年度										年 間 授 業 計 画		
教科・科目			地理歴史			地理総合			2		単位	
対象学年・組			1 年生			必履修						
教科書 (出版社)			新地理総合 (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)			新地理総合ノート (帝国書院)						
学習目標 【観点別】			○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 ○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 ○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な観察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。【学びに向かう力、人間性等】									
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容			評価規準			知	思	態	
1	前半	12 第 1 部 地図でとらえる 現代世界 中学地理で学習する世界と日本の基礎知識を復習する。地図と地理情報システムや、結び付きを深める現代世界などから、「地球の姿」について学習する。	○中学の復習 (世界) ○地球上の位置と時差 ○現代世界の国家と領域			グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフの作り方を理解し、さらにGISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身につけられたか。			○	○	○	
	後半	12	○中学の復習 (日本) ○地図の役割と種類 ○グローバル化する世界			大地形と小地形に影響された生活、気候区分とその自然環境など多様な影響を受けて生活していることが理解できたか。産業の発達や宗教、言語の分布や人々との関わりや要因について理解できたか。			○	○	○	
2	前半	14 第 2 部 国際理解と 国際協力	○生活文化の多様性 (地形・気候・言語・ 宗教・産業)			世界の人々の特色ある生活文化を基に人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容すること、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。			○	○	○	
	後半	14	生活文化の多様性や国際理解、地球的課題や国際協力などから、「世界の姿」について学習する。 ○地球的課題と国際協力 (資源エネルギー・人口・ 食料・都市など)			世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解し、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。			○	○	○	
3	18	第 3 部 持続可能な 地域づくり と私たち 我が国の自然環境や防災などから、「日本の姿」について学習する。	○日本の自然環境 ○防災 (地震・津波・火山・ 気象災害など)			我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。			○	○	○	
評価の観点 (評価基準)		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を備えているか。										
評価の方法		定期考査、小テスト、ワークシート、授業態度、提出物等により評価										
学習の手引き		○地図帳を通して地理的な見方・考え方を働かせ、地球の姿を観察すること。 ○ワークシートを活用し、様々なワークを通じて必要な資質・能力を養うこと。 ○この地球にいきる自然や人間生活の美しさや尊さなどを理解し、「私」の視点から学ぶこと。										
授業担当者		井下 裕二郎										

令和7(2025)年度 年間授業計画									
教科・科目			地理歴史 歴史総合		2 単位				
対象学年・組			1 年生		必履修				
教科書 (出版社)			歴史総合 (実教出版)		ダイアログ歴史総合 (第一学習社)				
学習目標 【観点別】			○世界とその他の日本を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解する。 ○諸資料から情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。【知識及び技能】 ○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考・判断・表現力】 ○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。【主体的に学習に取り組む態度】						
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12 近代化と私たち	○近代化への問い ○江戸時代の日本と東アジア ○幕政の改革と東アジア世界 ○産業革命と独立戦争 ○フランス革命とウィーン体制 ○アヘン戦争の衝撃と日本 ○江戸幕府の滅亡		・資料を適切な方法で正確に読み取った上で、重要な側面を理解できている。 ・諸資料から、近代化に与えた影響について考察し、表現できている。 ・歴史的な時代の流れを踏まえ、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○
	後半	12 近代化と私たち	○イギリス・フランスの繁栄 ○明治政府の諸改革 ○自由民権運動 ○帝国主義の時代へ ○朝鮮をめぐる日清戦争 ○日露戦争と東アジアの変動 ○日本の産業革命		・欧米列強とアジア諸国の関係性や国内の政治体制の変化を理解できている。 ・資料や図版を通して歴史的变化や影響を考察し、表現できている。 ・時代の特徴を多角的にとらえ、歴史の大きな転換点を意識し、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○
2	前半	14 国際秩序の変化や大衆化と私たち	○第一次世界大戦 ○ロシア革命とソ連の成立 ○米騒動とデモクラシー ○ヴェルサイユ体制 ○アジアの民族運動 ○第一次世界大戦後の欧米諸国 ○ひろがる社会運動と普通選挙		・左記のそれぞれの項目に対し、国際関係を踏まえながらその内容や歴史的意義を理解できている。 ・資料や図版を通して国際社会への影響を考察し、表現できている。 ・国際社会の対立と協調を意識し、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○
	後半	14 国際秩序の変化や大衆化と私たち	○世界恐慌と各国の対応 ○ファシズムの時代 ○満州事変と軍部の台頭 ○日中戦争と戦時体制 ○第二次世界大戦 ○国際連合の成立と冷戦 ○日本占領と日本国憲法		・各国の経済状況が及ぼす結果を踏まえながら、独裁勢力台頭の背景や歴史的影響を理解できている。 ・資料や図版を通して大戦に至る国内状況を考察し、表現できている。 ・戦前から戦後への流れを意識し、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○
3	18	グローバル化と私たち	○植民地の独立 ○米ソ両陣営の動揺 ○日本の国際社会復帰 ○石油危機と世界経済 ○緊張緩和から冷戦の終息へ ○日本の経済大国化 ○地域紛争と国際秩序の変容		・冷戦構造の拡大過程を踏まえながら、米ソを中心とした東西二つの陣営の対立関係を理解できている。 ・資料や図版を通して日本の戦後政治の特徴を考察し、表現できている。 ・日本の経済大国化への流れを意識し、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			○授業において、発表・討論・その他諸課題に対して、主体的に取り組んでいるか。 ○歴史的なものの見方や考え方を身に付けられたか。[基礎的・基本的知識の定着] ○歴史的現象から考察したことを自分の言葉で論理的に人に伝えることができたか。						
評価の方法			定期考査、小テスト、プレゼンテーション、授業態度、提出物等により総合的に評価する。						
学習の手引き			○授業に対して、自ら学ぶ姿勢と他者から学ぶ姿勢を大切にし、意欲的・積極的に参加すること。 ○国内外を問わず、日々の出来事に関心をもち、歴史的な視点で事象を捉えるようにすること。 ○教科書の学習を通して新たに湧いて出た疑問点を自ら考え、解決する姿勢をもつこと。						
授業担当者			佐藤 賢吾 ・ 中莖 和真						

令和7(2025)年度			年 間 授 業 計 画						
教科・科目			数学		数学 I		3 単位		
対象学年・組			1 年生				必履修		
教科書 (出版社)			高等学校数学 I (数研出版)				Study-Up ノート 数学 I		
学習目標 【観点別】			1. 基礎・基本を確実に身に付けさせ、基礎的な知識・技能を習得させる。【知識・技能】 2. 生徒の主体的・創造的な学習能力の育成を図り、生徒が学習の成就感を実感することが出来るようにする。【思考・判断・表現】 3. 生徒の数学に対する興味・関心を深め、数学的な見方や考え方の良さや有用性を実感できるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】						
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	18 式の計算 実数	1. 整式の加法と減法 2. 整式の乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算		展開・因数分解などの基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ平方根などの応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
	後半	18 1次不等式 集合と命題	6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式 9. 集合 10. 命題と条件 11. 命題とその逆・対偶・裏 12. 命題と証明		不等式の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ命題などの応用的な問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
2	前半	21 二次関数とグラフ 二次関数の値の変化	1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定		二次関数の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ二次関数の最大最小などを求めることができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
	後半	21 二次方程式と二次不等式	5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフと x 軸の位置関係 7. 2次不等式		二次方程式の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ二次不等式を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
3	27	図形と計量 データと分析	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理・余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 9. データの分析		三角比の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえデータから分析することができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			教科書の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。						
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物等により評価						
学習の手引き			・定義や概念を理解する。 ・定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。						
授業担当者			今村 昶信, 宇田川 正寛, 菅野 未来, 櫻井 友之, 江藤 佳澄						

令和7(2025)年度										年 間 授 業 計 画		
教科・科目			数学				数学A		2 単位			
対象学年・組			1 年生				必履修					
教科書 (出版社)			高等学校数学A(数研出版)				Study-Up ノート数学A (数研)					
学習目標 【観点別】			1. 基礎・基本を確実に身に付けさせ、基礎的な知識・技能を習得させる。【知識・技能】 2. 生徒の主体的・創造的な学習能力の育成を図り、生徒が学習の達成感を実感することが出来るようにする。【思考・判断・表現】 3. 生徒の数学に対する興味・関心を深め、数学的な見方や考え方の良さや有用性を実感できるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】									
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	態	
1	前半	12	第1章 場合の数と確率		1. 集合の要素の個数 2. 場合の数		集合の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ場合の数の問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○	
	後半	12	第1章 場合の数と確率		3. 順列 4. 組合せ		順列・組み合わせの基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ応用的な場合の数の問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○	
2	前半	14	第1章 場合の数と確率		5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率		確率の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ条件付確率などの問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○	
	後半	14	第2章 図形の性質		1. 三角形の辺の比 2. 外心・内心・重心 3. メネラウスの定理・ チェバの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 二つの円		平面図形の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ平面図形の応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○	
3		18	第3章 整数の性質		1. 約数と倍数 2. 最大公約数, 最小公倍数 3. 整数の割り算と商・余り 4. ユークリッドの互除法 5. 一次不定方程式 6. 分数と小数 7. n進法		約数や倍数の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ一次不定方程式を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○	
評価の観点 (評価基準)			教科書の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。									
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物等により評価									
学習の手引き			・ 定義や概念を理解する。 ・ 定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・ 演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。									
授業担当者			宇田川 正寛, 菅野 未来									

令和 7 (2025)年度			年 間 授 業 計 画								
教科・科目			理科		化学基礎		2		単位		
対象学年・組			1 年生				必履修				
教科書 (出版社)			化学基礎（東京書籍）								
学習目標 【観点別】			○実験を通じ、科学的な概念や原理・法則を理解し、自然観を育成する【知識及び技能】 ○グループ学習等を通じ、論理的思考や説明能力を養う【思考力、判断力、表現力等】 ○身近な現象に疑問を持ち、主体的に探究する態度を養う【学びに向かう力、人間性等】								
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12	第1編 化学と人間生活 第1章 化学とは何か 第2章 物質の成分と 構成元素		○ 物質の成分 ○ 物質の構成元素 ○ 物質の三態		・身のまわりの製品には、その物質の性質がうまく利用されていることに気づく。 ・物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。		○	○	○
	後半	12	第2編 物質の構成 第1章 原子の構造と 元素の周期表 第2章 化学結合		○ 原子の構造 ○ 電子配置と周期表 ○ イオンとイオン結合 ○ 分子と共有結合 ○ 金属と金属結合 ○ 化学結合と物質の分類		・物質は、原子・分子・イオンといった粒子を理解する。 ・さらに化学結合をすることによって成り立っていることを理解する。 ・さまざまな化学結合の違いについてについて説明できるようになる。		○	○	○
2	前半	14	第3編 物質の変化 第1章 物質量と化学 反応式		○ 原子量・分子量・式量 ○ 物質量 ○ 溶液の濃度 ○ 化学反応の表し方 ○ 化学反応式の表す量的 関係		・原子・分子・イオンの量について考えるための方法と理解する。 ・これらの粒子が組み換わる化学反応の表しかたと量的関係についての計算ができるようになる。		○	○	○
	後半	14	第2章 酸と塩基		○ 酸と塩基 ○ 水素イオン濃度とpH ○ 中和反応と塩の生成 ○ 中和滴定		・酸・塩基は私たちの身のまわりにあり、古くから知られている物質であることに気づく。 ・これらの性質と、中和反応について理解する。		○	○	○
3		18	第3章 酸化還元反応		○ 酸化と還元 ○ 酸化剤と還元剤 ○ 金属の酸化還元反応 ○ 酸化還元反応の応用		・中和反応と並び、重要な化学反応である酸化還元反応について電子の授受を中心に考察し、理解する。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			○授業や実験、観察について、主体的に取り組んでいるか。 ○化学的なものの見方・考え方を身に付けられたか。 ○自然現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。								
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物等により評価								
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○身の周りの様々な事象に対し疑問を持ち、科学的な見方や考え方で事象を捉えること。 ○仮説を立てながら観察・実験に主体的に参加し、探究する態度を持つこと。								
授業担当者			大原 聡								

令和 7 (2025) 年度			年 間 授 業 計 画							
教科・科目			理科		生物基礎		2 単位			
対象学年・組			1 年生		必履修					
教科書 (出版社)			Biology i版 生物基礎(啓林館)							
学習目標 【観点別】			○観察や実験を通じ、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する【知識及び技能】 ○グループ学習等を通じ、論理的思考や説明能力を養う【思考力、判断力、表現力等】 ○身近な現象に対して疑問を持ち、主体的に探究しようとする態度を養う【学びに向かう力、人間性等】							
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12	第1部生物の特徴 第1章生物の特徴	①生物の共通性と系統 ②細胞の構造 ③代謝とエネルギー		①生物の共通性について、系統樹を利用して理解できるか。 ②真核生物と原核生物の共通点と相違点について理解できているか。 ③化学エネルギー、ATP、酵素等の代謝に関連する事象を理解しているか。		○	○	○
	後半	12	第2部遺伝子とその働き 第2章遺伝子とその働き	①DNAの構造と遺伝子 ②DNAの複製と細胞周期 ③転写と翻訳		①DNAが遺伝子の本体であることと、その構造について理解できるか。 ②細胞分裂とそれに先立つDNAの複製について理解できるか。 ③タンパク合成について理解できているか。		○	○	○
2	前半	14	第3部ヒトの体の調節 第3章神経系と内分泌系による調節 第4章免疫	①恒常性と体液 ②自律神経による調節 ③ホルモンによる調節 ④血糖濃度と浸透圧の調節		①恒常性の意味と、体液によって恒常性が維持されていることを理解できるか。 ②③自律神経およびホルモンにより恒常性が維持される仕組みを理解できるか。 ④体液の濃度が適切に調節される仕組みを理解できるか。		○	○	○
	後半	14	第3部ヒトの体の調節 第4章免疫	①生体防御の全体像 ②自然免疫と獲得免疫 ③抗体と免疫記憶		①②生体防御の全体像及び、自然免疫と獲得免疫について理解できるか。 ③免疫記憶の仕組みについて理解し、医療への応用について理解できるか。		○	○	○
3		18	第4部生物の多様性と生態系 第5章植生と遷移 第6章生態系とその保全	①自然環境と遷移 ②日本と世界のバイオーム ③種多様性と食物連鎖 ④生態系のバランスと人間活動 ④外来生物と生態系の関係		①生物多様性と、食物連鎖について高度なレベルで理解できるか。 ②人間の活動が生態系に与える影響について深く考えることができるか。 ③日本において外来生物が環境に与えている影響と、世界の状況についても同様に理解することができるか。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			○授業や実験、観察について、主体的に取り組んでいるか。 ○生物学的な基礎・基本事項を習得できているか。 ○生物学的な現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。							
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物等により評価							
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○様々な教材を用いて基礎的知識・技能の習得を図ること ○生物事象について自分の言葉で説明できることを目標として学習に取り組むこと。							
授業担当者			宮木 奈緒 (1～3組) 林 美奈子 (4～8組)							

令和7(2025)年度				年 間 授 業 計 画					
教科・科目			保健体育		体育		3 単位		
対象学年・組			1 年生		必履修				
教科書 (出版社)									
学習目標 【観点別】			○各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 ○運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 ○生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】						
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	18	・体づくり運動 ・陸上競技		・体ほぐしの運動 ・体力を高めるための運動 ・短距離走		○	○	○
	後半	18	・球技 ・武道 ・ダンス		(男子) ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道 (女子) ・バレーボール ・アルティメット ・ダンス		○	○	○
2	前半	21	・球技 ・武道 ・ダンス		(男子) ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道 (女子) ・バレーボール ・アルティメット ・ダンス		○	○	○
	後半	21	・球技 ・武道 ・ダンス		(男子) ・バスケットボール ・サッカー ・柔道 (女子) ・バスケットボール ・フットサル ・ダンス		○	○	○
3	27	・陸上競技 ・球技	(男子) ・長距離走 ・サッカー／バスケットボール (女子) ・長距離走 ・バスケットボール／バレーボール		・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			○授業に主体的、積極的に取り組んでいるか。 ○体力の高め方、運動の技能を身に付けられたか。 ○仲間と協力をし、健康・安全に留意して取り組んでいるか。						
評価の方法			出席状況、授業態度、授業の記録、実技テスト等により総合的に評価する。						
学習の手引き			○自己や仲間の課題を発見し、運動の取り組み方や練習方法を工夫する。 ○仲間と協力をし、自己の役割を自覚し、活動を振り返る。						
授業担当者			(男子) 松村、伊藤、鈴島 (女子) 鈴島、切通、古里						

令和7(2025)年度			年 間 授 業 計 画								
教科・科目			保健体育		保健		1 単位				
対象学年・組			1 年生				履修対象				
教科書 (出版社)			現代高等保健体育（大修館書店）				現代高等保健体育保健ノート				
学習目標 【観点別】			現代の健康問題や新しい時代の健康の考え方などについて理解する。 健康に関する意思決定・行動選択について考え、説明できる。 健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組む。								
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容			評価規準		知	思	態
1	前半	6	現代社会と健康	01健康の考え方と成り立ち 02私たちの健康のすがた 03生活習慣病の予防と回復 04がんの原因と予防 05がんの治療と回復			○我が国の国民の健康と疾病について理解し、言ったり書いたりしている。食事、運動、休養、飲酒など、日常生活の基本となる生活態度について自他の課題を発見している。自他の課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。		○	○	○
	後半	6	現代社会と健康	06運動と健康 07食事と健康 08休養・睡眠と健康 09喫煙と健康					○	○	○
2	前半	7	現代社会と健康	10飲酒と健康 11薬物乱用と健康 12精神疾患の特徴 13精神疾患の予防 14精神疾患からの回復			○薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解し、説明できている。現代における精神保健の課題をあげ、その解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。		○	○	○
	後半	7	現代社会と健康	15現代の感染症 16感染症の予防 17性感染症・エイズとその予防 18健康に関する意思決定 ・行動選択 19健康に関する健康づくり					○	○	○
3		9	安全な社会生活	01事故の現状と発生要因 02安全な社会の形成 03交通における安全 04応急手当の意義との基本 05日常的な応急手当 06心肺蘇生法			○事故や災害時における危険を認識し、防災意識を高める。日常生活の中ではいつ、いかなる事態が起こるかわからない。このような場合に日常的なけがや熱中症の応急手当、心肺蘇生法等について、その手順や方法を説明、実際に行うことができる。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			○授業について、主体的に取り組んでいるか。 ○健康的なものの見方・考え方を身に付けられたか。 ○自他の健康課題について考え、その課題解決に向けて取り組もうとしているか。								
評価の方法			授業の取組態度、提出物、定期考査により評価する。								
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○身の周りの様々な健康課題に対し疑問を持ち、自分事としてとらえ考えること。 ○グループワーク等を通して、他人の考えを知り、自分の考えを深めること。								
授業担当者			鈴島、古里、伊藤								

令和7(2025)年度 年 間 授 業 計 画									
教科・科目			外国語 英語コミュニケーションⅠ		3 単位				
対象学年・組			1 年生		必修				
教科書 (出版社)			Grove English Communication Ⅰ						
学習目標 【観点別】			日常的・社会的な話題について、必要な情報を聞きとり、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じてとらえたりすることができる。 日常的・社会的な話題について、必要な情報を読みとり、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じてとらえたりすることができる。 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる						
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	
1	前半	18	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson1 Communication with People Around the World Lesson2 Pets and Humans:Together Through Time	①語彙や文法の知識をもとにコミュニケーションについての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとにペットの役割についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	
	後半	18	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson3 Musubi-Ties and Knots Lesson 4 The Power of Mushrooms	①語彙や文法の知識をもとに結びについての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとにキノコの効用や意義についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	
2	前半	21	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson5 Braille Neue: Connecting Dots with Lines Lesson6 Is This Meat Real or Fake?	①語彙や文法の知識をもとに点字についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとにフェイクフードや食料問題に関するについての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	
	後半	21	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson7 Plastic Polluting Our Oceans Lesson8 Manga: A Global Hit!	①語彙や文法の知識をもとにプラスチックごみによる海洋汚染についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに日本のポップカルチャーであるマンガについての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	
3		27	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson 9 The Mysteries and Secrets of Petra Lesson 10 Greta Thunberg: No One Is Too Small to Make a Difference	①語彙や文法の知識をもとにペトラ遺跡の発見やその歴史についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに環境活動家グレタ・トゥーンベリさんの行動や主張についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	
評価の観点 (評価基準)		定期試験やパフォーマンステストを中心に評価する。 その他、授業への参加度や提出物、授業内試験も考慮する。							
評価の方法		定期試験、パフォーマンステスト(ライティング・スピーキング・リスニング)、提出物、英単語テスト							
学習の手引き		教科書、参考書、ワークブック、JETとのTeam Teachingにより指導							
授業担当者		岡本愛美、百崎優太 他							

令和7(2025)年度			年 間 授 業 計 画							
教科・科目			外国語 論理・表現 I			2 単位				
対象学年・組			1 年生			必履修				
教科書 (出版社)			be English Logic and Expression I Clear (いっずな書店)							
学習目標 【観点別】			習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。							
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12	現在形・現在進行形 過去形・過去進行形 未来を表す表現 現在完了形 過去完了形・未来完了形	Lesson1 : Meeting People Lesson2 : Holidays and Weekends Lesson3 : Making Plans Lesson4 : Travel Lesson5 : Study and Activities		英語を論理的に理解し表現する。		○	○	○
	後半	12	助動詞 受動態	Lesson6 : Food Culture Lesson7 : School Life Lesson8 : Daily Life Lesson9 : Transportation Issues		英語を論理的に理解し表現する。		○	○	○
2	前半	14	不定詞（名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・SV0+不定詞） 動名詞	Lesson10 : Future Activities Lesson 11 : Staying Healthy Lesson 12 : New Products Lesson 13 : Hobbies and Interests		英語を論理的に理解し表現する。		○	○	○
	後半	14	分詞 関係代名詞 関係副詞	Lesson 14 : The World of Nature Lesson 15 : Trouble and Accidents Lesson 16 : Inventions Lesson 17 : Cities and Towns□		英語を論理的に理解し表現する。		○	○	○
3		18	比較 仮定法	Lesson 18 : Living Environment Lesson 19 : Social Problems Lesson 20 : Making a Wish		英語を論理的に理解し表現する。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			定期試験やパフォーマンステストを中心に評価する。 その他、授業への参加度や提出物、授業内試験も考慮する。							
評価の方法			定期試験、パフォーマンステスト(ライティング・スピーキング・リスニング)、提出物							
学習の手引き			教科書、参考書、ワークブック、JETとのTeam Teachingにより指導							
授業担当者			岡本愛美、榎本篤允、他							

令和 7 (2025)年度			年 間 授 業 計 画								
教科・科目			情報		情報 I		2		単位		
対象学年・組			1 年生				必履修				
教科書 (出版社)			新編 情報 I (東京書籍)								
学習目標 【観点別】			効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする【知識及び技能】 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う【思考力、判断力、表現力等】 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う【学びに向かう力、人間性等】								
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態		
1	前半	12 ○Webページと情報デザイン ○情報のデジタル化	○電子メールについて学ぶ ○Webページの制作について学ぶ ○情報量・ビット・バイトについて学ぶ ○数値・文字の表現について学ぶ ○音・画像のデジタル化のしくみについて学ぶ		【知識・技能】 ・Webページの特徴や作成方法について理解できる ・情報のデジタル化について理解している 【思考・判断・表現】 ・Webサイトを適切に設計することができる ・アナログとデジタルについて説明することができる 【学びに向かう力、人間性等】 ・Webページの制作に意欲的に取り組んでいる ・情報のデジタル化の実習に興味をもって取り組んでいる		○	○	○		
	後半	12 ○インターネットの仕組み ○問題解決	○IPアドレスについて学ぶ ○ドメイン名と名前解決について学ぶ ○Webページの閲覧の仕組みについて学ぶ ○問題解決の考え方、手順について学ぶ		【知識・技能】 ・IPアドレスの表記について理解し表現することができる ・問題解決の基本的な手順について理解している 【思考・判断・表現】 ・Webページの仕組みについて、説明することができる ・問題解決の手順について説明することができる 【学びに向かう力、人間性等】 ・インターネットの仕組みの学習に興味をもって取り組んでいる ・実習に意欲的に取り組んでいる		○	○	○		
2	前半	14 ○安全のための情報技術 ○知的財産権 ○個人情報とその扱い	○パスワードの管理について学ぶ ○暗号化やデジタル署名について学ぶ ○産業財産権について学ぶ ○著作権について学ぶ ○個人情報とプライバシーについて学ぶ		【知識及び技能】 ・不正アクセスについてどのようなものがあるか理解している ・著作権の権利についての法規やルールについて理解している 【思考力、判断力、表現力等】 ・パスワードの重要性について正確にまとめることができる ・著作権と産業財産権における権利の取得の違いを説明できる 【学びに向かう力、人間性等】 ・パスワードの重要性やセキュリティについて関心を持っている ・著作物の利用時に著作権を侵害しないように取り組んでいる		○	○	○		
	後半	14 ○統計量とデータ処理 ○モデル化とシミュレーション	○表計算ソフトウェアの関数の利用について学ぶ ○表計算ソフトウェアによるデータの可視化について学ぶ ○統計量とその計算方法について学ぶ ○モデル化とシミュレーションについて学ぶ		【知識及び技能】 ・表計算ソフトの関数を使って統計量を計算することができる ・モデル化の目的や手順、分類方法について理解している 【思考力、判断力、表現力等】 ・おもな基本統計量について説明することができる ・モデルの分類について具体的例で説明することができる 【学びに向かう力、人間性等】 ・実習に意欲的に取り組んでいる		○	○	○		
3	18	○アルゴリズムとプログラミング	○プログラムの基本構造について学ぶ ○演算子や変数について学ぶ ○プログラム作成上の基本ルールについて学ぶ ○配列の仕組みについて学ぶ ○関数の機能について学ぶ		【知識及び技能】 ・簡単な基本構造のプログラムを理解し、作成することができる ・変数の役割について理解している 【思考力、判断力、表現力等】 ・様々な演算子の機能について説明することができる ・配列の宣言、値の代入の方法を説明することができる ・作成したプログラムが正しいかどうかを考察することができる 【学びに向かう力、人間性等】 ・プログラム作成に意欲的に取り組んでいる		○	○	○		
評価の観点 (評価基準)			○基本的な学習内容について意欲的に取り組み、その内容を理解している。 ○様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の解決に向けて情報技術を効果的に活用することができる。 ○実習等に意欲的に取り組んでいる。								
評価の方法			定期考査、提出課題・作品、出席状況、学習態度 等								
学習の手引き			○パソコンを使用するときは、各自のユーザ名とパスワードを使う。パスワードは自分でしっかり管理する。 ○授業の大半は実習になる。集中して取り組むこと。 ○授業中に終えることができなかった内容は、放課後にコンピュータ教室に来室し、その日のうちに完了させる。								
授業担当者			河原井 伸和								